



第15回生体恒常性とストレス応答セミナー

コヒーシンによる転写制御と その破綻の分子病態

東京大学分子細胞生物学研究所

教授 白髭 克彦 先生

日時: 2013年6月17日(月)
18:00~19:30

場所: 山口大学医学部総合研究棟8階セミナー室

SMC タンパクは進化的にも保存されたタンパクであり、真核生物では6つのサブファミリーに分類される(Smc1-6)。コヒーシンは Smc3 と Smc1 から構成されるリング状の複合体で、このリングの内側にゲノムを抱え込むことで、ゲノムの分配及び遺伝子発現制御に機能を持つことが知られている。コヒーシンの機能不全はコルネリアデランゲ症候群(CdLS)の原因であることが知られているが、コヒーシンによる転写制御の分子実態は大部分が不明である。セミナーでは新たに我々が単離した CdLS 原因遺伝子、Hdac8 を例にコヒーシンの代謝と、その代謝不全がなぜ転写制御不全を引き起こすのかについて議論したい。

医学部学生・大学院生を含め、多くの方のご来場をお待ちしております。

主催: 山口大学研究推進体「ストレス応答と関連した難治性疾患の克服のための戦略」
問い合わせ先: 医化学分野 中井 彰 (2214)

